

りの杉苗が草に負けそうになっている。そんな中を沢はいくつにも分岐しながら、だんだんとやせ細ってゆく。遡行終了7:35。所要時間は1時間15分であった。

(記・一)

[タイム] トの沢出合(6:20)→終了(7:20)

### 鬼ヶ煩沢支流チの沢

1989年5月28日

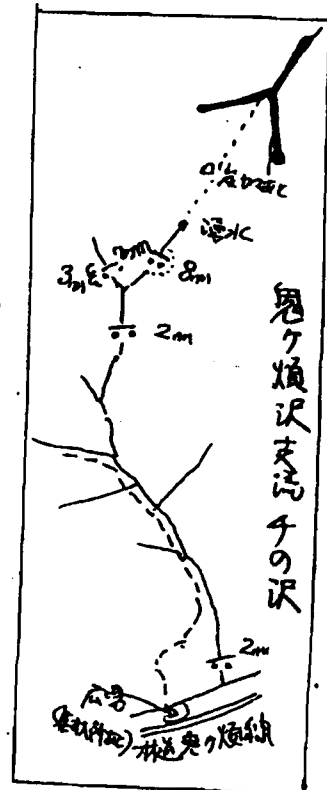
I

尾根から急な斜面を5分ほど下ると、炭焼き釜があった。このあたりでも炭焼きが行われていたらしい。その後すぐ湧水があって、いよいよチの沢(仮称)の下降が始まる。すぐに8mの滝。左岸を捲いて下る。クライミングダウンも可能であるが、捲いてしまった方が早い。このあとはずっと平凡なままの下りとなる。

右岸から3本目の支沢が合流すると、右岸にしっかりした道が出てくる。ブルで拓いた林業用の道である。沢は平凡なままだし、ここで沢から上がることにする。

(記・.....)

[タイム] 下降開始(10:30)→林業用歩道(11:15)→鬼ヶ煩沢出合(11:25)



### 鬼ヶ煩沢支流りの沢右俣、中俣、左俣

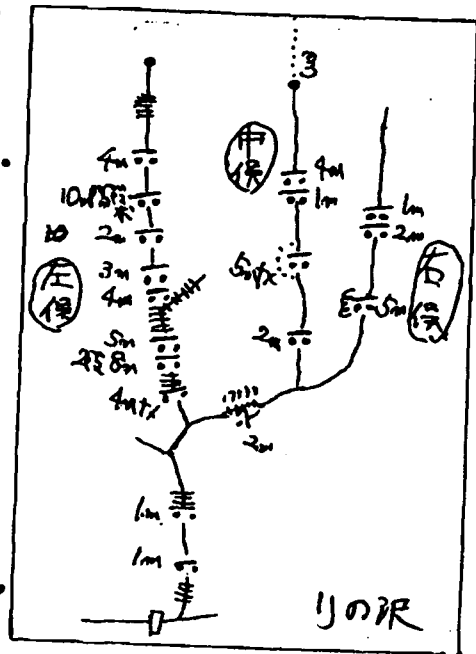
1989年5月28日

I

槍沢出合の広場に車を置いて、8:00遡行開始。樹林帯の中の細い沢である。1mくらいの小滝が2つかかるが、特に問題となるところもない。20分程歩いて左俣出合。奥に4mほどの滝がかかっているのが見えるとはいうものの、水量も少なく細い流れの左俣を見送って本流を進むが、後から考えると、この左俣こそこの沢の本命ともいうべき沢であった。

左俣出合から少し進むと、行く手を阻むように大岩が見えてくる。水はその両側を流れ落ちる。右側は2 mほどの小滝、左側はナメとなって。そのあとすぐに中俣出合。水量は中俣の方が多いが、まずは右俣ヘルトをとる。

ところが、右俣に入ったとたん、カレ沢となってしまう。これは方針を誤ったかと思っただが、水は細かい岩屑の下を流れていたみたいで、岩盤が出てくるようになると、水流も復活した。八溝にはよくある現象である。やがて溝状になった5 mの滝。直登して上に出る。水量が少なかったので、シャワーにはならなかった。このあとは小滝が2つあっただけで源頭となる。やぶというほどのものもないまま、斜面をつめあげて尾根へ。



尾根上は踏跡こそないものの、下草もなく、楽に歩ける。小休止した後、北側にちょっと移動してから中俣めざして下降開始。スリップしたら簡単には止まらないような急斜面を下る。傾斜が緩やかになったところで水流が出てきた。源は、岩屑の下から流れだす湧水。音を立てて湧き出している。これも八溝の山にはよく見られる現象である。

流れのままに下ってゆくと、すぐ4 mの滝。クライミングダウンする。このあと5 mほどのナメ滝があり、ここは下れず、右岸の斜面を下る。登ことはできそうである。あとは平凡なままで右俣との合流点に着き、さらに少し下って、左俣の遡行にかかる。

出合の状況からすると、左俣がもっとも細い流れであったのだが、5 mクラスの滝が連続する楽しい遡行となった。しかも割とホールドが多く、すべて直登できるではないか。望外ともいふべきうれしさ。20分程の間であったが、小滝登りを楽しんだ。

左俣も源頭は湧水である。とにかく八溝の沢の源は、破砕帯下部から湧き出す湧水が多いようである。ただこの左俣だけは、源頭がスギまたはヒノキの造林地となっていて、やぶごぎの苦労が必要であった。尾根到着9:05。(

[タイム] 遡行開始(8:00)→左俣出合(8:20)→中俣出合(8:30)→右俣終了・中俣  
下降開始(8:55, 9:05)→中俣下降終了(9:25)→左俣遡行開始(9:35)→  
左俣終了(10:20)

## 鬼ヶ煩沢支流ヌの沢

1989年5月28日

L:

天気曇。今日の目的の沢は、檜沢との合流点の少し上流で鬼ヶ煩沢に合流して  
いる無名沢(ヌの沢と仮称する)である。前日に少し遡行したのであるが、時間  
切れで断念した。結構大きな滝があり、期待できる。

身支度を整えて、遡行開始。出合には3mの滝がかかり、右岸を登る。そのあ  
と沢はいったん平らになり、次に8m, 5m, 3mと連なる連瀑が出てくる。そ  
う立ってはいないので、ランニングビレーをとっていけば直登できそうであるが、  
ヌルがついているのがいやらしい。私達は、左岸の草付に取り付く。ザイルを使  
って草付を慎重にトラバースして、滝上部へ。

その後、数本の小沢を合わせた後二俣となる。水量比は1:1。左俣には7m  
程の滝がかかっている。右俣の方が本流である。右俣は1~3mの小滝が適当に  
出てきて、飽きることはない。先ほどの二俣から約15分で、沢は再び1:1に分  
かれる。右沢には1mの小滝が2つ、本流である左沢には8m2段の斜瀑がかか  
っている。左沢に入って斜瀑を越すと、2段3m、更に7mと次々に滝が出てく  
る。7mの滝は直登できそうになく、左岸のバンドめざして草付を登り、越える。  
入溝の沢はヤブ沢だと半分諦めていた私達だったが、思わぬ所で沢登りの醍醐味  
を味わうことができた。

5mの階段状滝を越えると、沢は再び1:1の二俣となる。私達は、下降のル  
ートを考えて、右沢にルートをとった。沢はもう源頭の様相をみせ、どんどん高  
度を増してゆく。途中、1mの小滝をみただけで水が濁れる。あとはヤブこぎを  
して、10時30分尾根筋に出る。10時50分、比較的広いジャンクションピークに立  
ち、現在地確認の後、リの沢(仮称)に入ったパーティと無線交信をして、ヲの沢  
(仮称)左俣の下降準備に移る。

(註)

[タイム] 出合(8:20)→源頭(10:10)→尾根(10:30)→ジャンクションピーク(10:  
50)